

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョイールアルトちばだいまえ		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性や発達段階に合わせた療育プログラムの実施	職員間で伝達漏れがないように、記録やLWのGを有効的に活用している	職員がそれぞれやりがいをもって支援に取り組めるよう、具体的に伝える
2	職員全員が子どもを観察して、本人の具体的な特性や傾向を細かく分析しアセスメントをとることができる	療育グッズの提案、製作 支援方法の共有 5領域にわたるアセスメントシート作成し使用している	ミーティングを定期的に行い、職員間の目標や取り組み方を明確にしていく
3	職員間で日常的に支援の振り返りや子どもの状況把握、新しい療育内容の提案が活発に行われている	保護者、関係機関、訪問支援員との連携を密に行っている 責任者が参加した面談や会議の内容をもれなく周知している	保護者とのモニタリングや、訪問先の支援会議に、責任者だけでなく支援員も参加できるようにする

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への情報共有、取り組んでいることの周知	LINEでのやりとりが主なため、情報発信が一方的になりやすい	個別に連絡を取り確認する 画像等を使って印象に残りやすい発信をする
2	バリアフリー化などの環境設定および子どもが過ごしやすい構造化	事業所が2階のため、階段の昇降がある 1対1の個別療育のため、言語コミュニケーションに頼りやすい	個別にはスケジュールやタスクを可視化しているが、環境内でも視覚支援を取り入れる
3	送迎に人員や時間を取られている	専属のドライバーを確保できていない	なるべく保護者に送迎の協力をお願いする

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ジョイールアルトちばだいまえ

公表日 2026年3月30日

利用児童数 26

回収数 16

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16					机や椅子は移動できるものを使用。空間を広く使えるよう、備品の整理整頓を心掛けています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13	1		2		個別療育の1対1対応であるため、人員配置と利用者数を確認し無理のない運営を心掛けています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			2		事業所が2階で階段に手すりが無いため、支援員が利用者と手を繋いで昇降するようにしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15			1		清掃は朝夕2回行っています。部分的にマットを敷き、床に座ったり寝転べるようにしています。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15			1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	1				今後もアセスメントを徹底し、お子様の特性やニーズをより深く理解した計画作成に努めてまいります。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15			1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					ご理解に感謝します。今後もニーズに沿った計画を立案し、日々の支援に具体的に反映させてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16					本人支援に加え、ご家族への支援や、園・学校とのスムーズな連携（移行支援）にも、より一層注力してまいります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8		2	6		1時間の個別療育に集中して取り組む体制のため、他園や地域との交流機会は設けておりません。
保護者へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	1				
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	3	1	5		ペアトレ等の開催はまだありませんが、個別相談はいつでも可能です。お困りごとは気軽にご相談ください
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16					日頃のご協力に感謝します。今後も密に情報を共有し、保護者様と共にお子様の発達を支えてまいります
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15		1			モニタリング面談のほか、LINEや電話でも相談を承っております。どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15			1		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	2	6	6	個別療育を優先した体制のため、保護者様やきょうだい児同士の交流機会の提供は行っておりません
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16				ご理解に感謝します。今後も迅速・丁寧な対応を継続し、満足いただける運営に努めてまいります
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			3	日々の活動はHUGで個別報告しています。自己評価のHP掲載についても、今後は周知を徹底いたします
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14			2	
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10		1	5	訓練の実施内容は個別に報告していますが、全体への周知を深めるため、適切な共有方法を検討します
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		7	訓練の実施内容は個別に報告していますが、全体への周知を深めるため、適切な共有方法を検討します
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1		2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			2	発生時はLINEや電話で速やかに報告します。状況を具体的に説明し、安心いただける対応を徹底します。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	1			今後も信頼にお応えし、笑顔で通える環境作りに全力で取り組んで参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15			1	これからもお子様の安心と安全を大切に日々の支援をより一層充実させてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	1			今後も満足いただけるよう、お子様一人ひとりに最適な支援を提供できるよう尽力して参ります。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年3月30日				
ジョイーレアルトちばだいまえ						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・机や椅子は移動できるものを使用。療育終了時には使用したものをすべて片付けている。 ・空間を広く使えるよう、備品の整理整頓を心掛けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・個別療育で1対1対応であるため、人員配置と利用者数を確認し無理のない運営を心掛けている。 ・場合によってキャンセル待ちや利用日の変更など、保護者にも協力をいただいている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2		・空調機が古く、3機が一体稼働のため適切な環境整備が難しい ・子どもにわかりやすい構造化。玩具の場所がわかりやすいように、棚に玩具の写真や名称を貼るなどする ・事業所が2階で階段を利用するが、手すりが無い。支援員が利用者として手を繋いで昇降している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・朝夕、清掃をしている。部分的にマットを敷き、床に座ったり寝転んでも安全なようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・広い空間の他、個室を用意し、活動を分けることもできる。	・利用者の希望を反映できるよう、選択肢を設けるなどする
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	・療育後の記録時間や、空き時間など、日常的にミーティングを行い、意見交換している。 ・個別支援計画原案についても意見交換できている。	・パート職員のシフトがあるため、全員への周知徹底は口頭のみでなくチャットを利用する
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・前回避難訓練の結果の周知が行き届いていなかったため、療育の記録とともに即日報告するようにした。	・個別療育のため、参加できる児童が限られている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・事例検討の機会を設け、支援内容の見直しや対応の統一をできるようにしている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・オンライン研修や事業所内研修が充実している。研修を受けるだけでなく、レポート提出や確認テストが設けられており、理解を深めることができる	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・ホームページにて公表している	・ホームページに公表されていることの周知があまりされていない
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・事業所でアセスメントシート（スキルチェックシート）を作成し、利用者の成長を記録できるようになっている	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・ミーティングの他、チャットも利用し意見しやすい環境になっている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・療育の記録を書く際、個別支援計画の目標が確認できるように設定してある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・事業所でアセスメントシート（スキルチェックシート）を作成し、利用者の成長を記録できるようになっている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			・地域支援・地域連携の内容が盛り込めていない

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			・利用者の達成度を記録するよう心掛け、次のステップの参考にしている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			・個別療育がメインなので、集団活動における目標は設定していない。 ・同様の利用者同士で関わり合う機会をもうけることがある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2		・出勤時間がそれぞれちがうため、チャットを利用して伝達漏れのないようにしている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2		・退勤時間がそれぞれ違うため、チャットを利用したり翌日に伝えるなどしている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			・記録用紙の改善を行っている ・療育記録サイト以外に、利用者の様子や注意事項などをチャットツールのノートにまとめている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			・期限内に余裕をもってモニタリング日の設定を行っている
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			・事前に職員から情報収集したうえで、児童発達支援管理責任者が参加している
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	4	1		・対象児の支援会議を設け、支援センターから助言をもらった
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			・HUGの記録と、必要に応じてLINEや電話などで保護者と情報交換している
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			・利用者が未就学児のため、意思や意向を確認するための手立てが必要
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		・個別療育が主であることや、共働きの家庭が多いことから開催は難しい
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			・視覚支援を取り入れてる
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			・保護者への周知の仕方を工夫する
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			・契約時のアンケートで聞くようにする
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		・飲食の提供をしていない ・指示書が必要な重度のアレルギーを持つ利用者が在籍していない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			・社内研修への積極的参加を促す
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1		・やむを得ない身体拘束について、支援計画に記載していなかった ・順次記載するよう改善する